

令和3年6月19日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
令和3年度 第6回

孰れをか先として伝え、孰れをか後として俺まん

皆さん、おはようございます。限られた時間ですので、早速レジュメに沿って、ご一緒に論語の素読を致しましょう。

【十二】子游 曰く、子夏の門人 小子は、洒掃應對進退に当りては則ち可なり。抑も末なり。之を本づくれば則ち無し。之を如何にせんと。子夏 之を聞いて曰く、噫、言游 過てり。君子の道は、孰れをか先として伝え、孰れをか後として俺まん。諸を草木の区にして以て別あるに譬う。君子の道は、焉んぞ誣うべけんや。始め有り卒り有る者は、其れ惟 聖人かと。

素読をする際は、登場人物が誰でどういう状況なのか、自分でイメージを膨らませていくことが肝心だと思っています。登場人物は年寄りなのか、若者なのか。自分が年寄りだと思ったら年寄りの立場で考えればよいし、若者だったら若者の立場で考えればよろしい。自分の年代にあわせて感情移入をすれば良いでしょう。そのように自分自身をタイムスリップさせて、論語の場面にいるような気持ちで素読をすると身体に入って来ます。

登場する子游は孔子より45歳若く、子夏は44歳若いお弟子さんです。同年代のどちらも優秀な弟子で、名前も当然、世に響いているわけです。この文章は子游が子夏の教え方に対してクレームをつけ、それを子游が後から聞いて反論をしている状況です。子游と、子夏の弟子が代理で問答をしていると捉えれば良いでしょう。

では、全体のイメージを浮かべたところで、解説を致します。

○子游が言いました。「子夏の門人たちは、拭き掃除、お客様への接待、礼儀作法といった細かなものについては非常によく分かっている」

・・・根本的なものではない、具体的な動きについては非常によく出来ると、一つ褒めておいたわけです。

○しかし、これらの事はみな些事である。根本的に考えれば、あってもなくてもよいものだ。

・・・こういうことは、道を習得する上では悉く些事抹消のことだと、批判をしました。こう言われると子夏の門人たちは、とんでもない！ という話になると思いますが、バツサリ切り捨てて続けます。

○私はこう考えるけれども、如何なものかねえ。

・・・逆に子夏の門人たちに質問をし、自分達で考えてごらんなさいと振ったわけです。門人たちは当然、師匠の子夏に報告をします。

○子夏はこの報告を聞いて言いました。「ああ、子游はなかなか素晴らしいと思っていたが、とんでもない間違いをしている。君子のなすべき道は、何を先に教え何を後に教えるべきかを伝えることだ。」

・・・「俺まん」とありますが、これは厭きるという意味ですから、この字は間違いだと思って下さい。文章から言うと、「伝」という字に置き換わると考えて解釈すれば良いでしょう。相手によってどの程度のレベルか、細かい所から教える方がよい人と根本的なものを先に教える方がよい人、それぞれにあわせて伝え方を変えねばならない、と解釈致します。

少し脱線を致します。図らずもここで、朱子学の勉強の仕方と陽明学の勉強の仕方が浮き彫りになりました。朱子学は一つ一つ順序立てて、1から2、2から3と段階を踏んで覚えなさいという教え方です。陽明学は、枝葉末節などは後でも良い。何が肝心なのかを考え、体験して、日々努力しなさい。そうすれば或る日突然パッと閃くものである。だから、根本的なものから体得するよう努力しなさい。そのためには現場へ行く。つまり行動しなければならぬと教えています。

ですからここには、論語を学ぶ時の学ぶ手法が隠れています。と言っても普通の人は単純に読み過ぎるのが当たり前です。

○例えば、草木の種類によって、それぞれ育て方は別々である。

・・・苗を植える時に、何もしないでもすくすく育つ苗なのか。或いは極端に雨の少ない場所に苗を植えるのなら、どんな苗が良いのか。植える苗によって育て方が違うものだと読めばよろしいでしょう。

○君子という遥か遠い大きな道については、どうして弟子たち全てに同じ教え方を押しつけてよいものか。

・・・君子の道の入り方は一つではない。人によって教え方は色々だ。それを覚えていなければ人を教えることは出来ない、と主張しています。

○初めから終わりまで同じ教え方で良い者は、聖人しかいない。

・・・論語の中で孔子の弟子の顔回は、どんな教え方をしてもずっと理解する、孔子の言いたい事をみな理解できる人物として登場しています。顔回のような人は先ずいないね…ということです。

「惟、聖人か」と言い切るのは、少し言い過ぎではないかと私は感じます。君子で良いではないかと思っていますが、学者の先生方は「君子ではだめで、聖人しかいない」という言い方をしています。

この論語のテーマは、人を教えるには相手をよく見抜いて教え方を考えなさい、と捉えます。

では、今の時代に置き換えてみます。

レジュメに、「菅政権は終わりに近づいています。次の総理を目指す人達が動き始めています」と書きました。何度も何度もチャレンジしている野田聖子や石破茂、そして河野太郎、おまけに安倍前総理がまた手を挙げだしたから、どうなっているのかと思います。我々が次の総理を判断する場合、根本的な事を重視する人が良いのか、細々とした具体的な事を重視する人が良いのか、手を挙げている人をよく観察することです。そうすると、すべて出来る人、総理大臣として適格と思える人は私にはいないと思えます。自分が一番重要だと思う政策を一生懸命やりそうな人を選んだら良いと考えます。ちなみに、自由民主党の総裁選に投票できる人は、この中におられますか？・・・いませんね。自民党の党費を払っている人は・・・何人かおられます。

余分な話ですが、私はこういうことをしてくれる政治家がいれば、一票投じます。それは税法の体系を変える人です。「今の税務処理は間違いだ。今の税体系は日本の国を滅ぼす方向に進んでいる。したがって税金の根本的な考え方を正して、税金の取り方を根っこから変えよう・・・」と主張する人がいれば応援したいと思っています。

今の税制は、日本の国がつぶれる方向にどんどん進んでいます。官僚が一所懸命やればやるほど、細々としたルールを作り税金を細かく細かくとり過ぎるようになります。日本の歴史を振り返ると、江戸時代はその家にある財産やら草木の数やら、色々なものを細かく調べて税金をかけました。江戸時代の場合、「五公五民」であればむしろ旗が立つ（一揆が起きる）。これが歴史の事実です。税金を半分とられたら食べていけませんね。

世間では、「六公四民」は悪法、「五公五民」はギリギリだという言い方をしていますが、私はこれは歴史に照らし合わせると間違いだと思っています。歴史で見ると、90%以上の税金をとる国は潰れています。日本は戦後、90%以上の税金をとりました。ですから

潰れる道に一步踏み込んだわけです。わずか70年前のことです。また同じことをしようとしていると私は思っています。その選定をするのがマイナンバーだと思っています。

現在、マイナンバーの使い道は、税金・災害対策・社会保障の3つだと政府は公表していますが、これからもっと使い道を考えていると常に打ち出しています。政府は景品を付けたりしてマイナンバーが普及するようにしていますが、マイナンバーが行き渡った暁には、国民全部に90%以上の税金をかける訳ではありませんが、速やかに一人残らず税金の網をかぶせることが可能になります。

ということで、日本の今の税制は国を滅ぼす道をまっしぐらに進んでいる。そう主張して、税制を根本から変えると掲げた政治家には、是非一票を投じたい。「NHKから国民を守る」などと固有名詞をつけた党がありますが、税金を旗印に掲げてくれる政治家・政党が出ないかなと思っています。これは私自身の考え方で申し上げている訳ですので、違う政策を重要視している方は、その政策を掲げる方を選べばよいのではないかと思います。

五事を正す

恒例の質問に参ります。ズームで参加されておられる方も御一緒に、手で大きな丸を作ってください。肩の運動になります。では、お聞きします。

- このところずっと嘘をついていない方
手を挙げるのをためらった方がおられますが、主観で良いのです。
- このところずっと良い日が続いていると思う方
- 有難うと言い、有難うと言われることが多かった方
- このところ、身体の手入れをよくやっている方

皆さん大きな丸を出されました。素晴らしいですね。手を下ろす時に、腕を後ろにもってきて肩甲骨を合わせるような動きをすると、これも身体の手入れになります。こういう身体の手入れをした時に肝心なのは、どこに効いているかが分かる事です。どこも痛まない、どこも感じないという人は、やり方が違います。手を後ろに回した時に、<肩甲骨が動いてきたぞ><背中が筋肉が痛いぞ>と感じたなら、そこに効いています。この動作をしたらどこに効いているか、それが頭に浮かばなければ役に立ちません。そういう身体の手入れを致しましょう。歳を重ねれば重ねるほど必要です。

- このところずっと、自分磨きを続けている方

自分磨きについては、前にも申しましたが中江藤樹が実践した自分磨き「五事を正す」を頭の中に入れて、注意されるとよいと思います。

1つ目は貌です。顔つきを和らげる。良い表情にする。ご自分は、小さい子が寄って来る

ような穏やかな顔になっていますか？

2つ目は言です。良い言葉遣いや良い話をする。自分の口から出すものは、とても良いものばかりだと意識しましょう。

3つ目は視です。出来る限り良いもの、美しいものを見る。目をそむけたくなくなるようなものはなるべく見ないで、自分の心が磨かれるような、温かくなるようなものを見るように努力しましょう。

4つ目は聴です。できるだけ良いことを聞く。良い話だと思ったなら、出かけて聞いてみることです。

5つ目は思です。どういうことを考えているか、どういうことを思っているかです。自分の肚の中に <人生如何に生きるべきや> という哲学がしっかり収まっているかどうか、世のため人のためという考えが肚の中に収まっているかどうか、お考え下さい。

これらの五事を毎日実践していれば、自分磨きは毎日出来ていることになります。

○ 昨晚寝る時に明日以降のことをイメージして、出来たと思って眠れた方

例えば、今はコロナですから、<コロナが収束して良かったなあ…>とイメージする。何かが完成して、出来て良かったなと思って眠れば、そのイメージが刷り込みになって成功します。

令和3年を考える

○辛い・苦しい・むごい年回り

その人の経験や立ち位置によって、同じ令和3年であっても辛い日々が多いと思う人、苦しいと思う事が多いと思う人、むごいなと感じる人・・・その人その人によって違うわけです。

ただ、「朝の来ない夜はない」と申します。辛いということは、その先に来る楽しみや喜びをしみじみ味わうことが出来ると思います。むごい目に遭っても、それを乗り越えれば、その先には小躍りしたくなるようなことが待っていると考えることが出来ます。ですから、辛かったり苦しかったり酷かったりを中途半端な所で終わりにしないで、とことん付き合うことです。そうすれば、次は明るい未来が待っていると思って下さい。

○コロナは一步一步人間社会に入り込み、しっかり地歩を固める年回り

コロナはもう、あって当たり前になりました。完全に全滅すると考えない方が良かろうと思っていますので、コロナと共存して生きていくことになる。ということは、これから先々とんでもないものが来るとしています。

先日、中斎塾フォーラム顧問の木内孝さんが名誉顧問を務めるイースクエアという会社

のメルマガで、木内孝さんの御自宅から信胤先生が書かれた「5つの災いとそれからの脱出」というメモが出て来たとなりました。それは、30数年前に書かれたもので、今世紀中に人類が受ける災いについて5つに分けた表でした。どういう災いが具体的に起きるか、そのための対策はどうすべきか、たった一枚の紙にびっしり書き残しておられました。時事評論などというものではなくて、時代予測と対策です。大変な資料が出てきたと思っていますので、後日ご紹介致します。

○一気に落ちてゆく人々と、一気に駆け上がる人々が生まれる

先週のズームで行った東京フォーラムで、一気に落ちてゆく人々と一気に駆け上がる人々を少し調べてみたい、実例を出したいと申しました。実例を出すのは大変なのですが、そういうことを考えていく上で参考になるのが、紹介書籍として回覧している『資本主義はなぜ自壊したのか』（中谷巖著 集英社文庫）です。大きい時代背景を考える時には、資本主義とか共産主義、社会主義、修正主義といった100年単位でものを見る、そういうテーマを決めるといふ所にはいっていくことになると思います。

お時間になりました。本日はここまで致します。有難うございました。